論文審査の過程を垣間見る　ー EMBO Journalの新たな試み ー

精魂込めて準備した投稿論文の運命はレフェリーのコメントによって左右される.Rejectionで精根尽き果てることもあれば, 一発Acceptで歓喜に包まれることもあろう. 一発Acceptは滅多にないので, リバイスの際にレフェリーのコメントに対して一つ一つ丁寧に回答して納得してもらうのがAcceptへの道である. リバイスの回答作成は人間とのやりとりであるので, レフェリーの機嫌を損ねないようにしないと, などと気を遣う必要もある. とかく研究者の喜怒哀楽に直結する論文審査ではあるが, その内容は非公開なので, 他の人たちがどのようなコメントをもらっているのか, どのような感じでリバイスをこなしているのかは身内の以外は知るよしもない. が, 知りたいですよね?

既にご存じの読者も多いと思うが, The EMBO Journalでは2009年初頭より審査過程の透明化に踏み切っており, 原則すべての論文でレフェリーと著者とのやりとりを原文のままオンラインで公開している(オンラインのサプリメント情報の再末尾に「Review Process File」としてpdfファイルで置いてあります).

これは驚くべき試みで, いろいろな意味でたいへんに興味深い. ざっと思い付くだけでも,

(1)気になる論文のレフェリーによる評価はどうだったのか?　精通している内容ならもちろんのこと, 詳しくない分野でも著者以外のエキスパートからの評価が読めるのはうれしい.

(2)いつも素晴らしい研究を発表している「あの」研究者がどのようなやりとりをするのか.

(3)「原文のまま」載せてあるので, これを読むだけでレフェリーへの回答の書き方を学べる. 常日頃, 学びたくても学べなかった部分である.

(4)知り合いがどのようなやりとりをしているのかという「覗き見」的興味も満足できる.

(5)逆の立場, すなわち自分がレフェリーに当たった場合の例文集として役立つ.

などなど. いずれにせよ, 論文をより深く味わえるのは確かだ.

さて, EMBO J.のこの試みはどのように評価されていくのだろうか. レフェリーにとっても匿名とは言え新たな緊張感があるだろう(むろん, Acceptされた論文だけが載っているのでRejectionの場合にどのような書かれ方がされているのかわからないが・・・). 研究者の中にはこのような透明化を望まない場合もあるかもしれない. 今後, 同様の仕組みが広まっていくのかどうかがEMBO J.の実験の一つのポイントであろうか.

(田口　英樹)